

# 岩手食文化研究会

岩手食文化研究会より

発行日 二〇一〇年 六月十七日

編集者 宮本 義孝 第十四号

岩手食文化研究会 二〇一〇年度 総会並に講演会

## 岩手の食と農を考える

岩手食文化研究会、二〇一〇年度総会は、六月五日(土)、

午後一時から盛岡市勤労福祉会館(紺屋町)で開かれました。

「郷土食や食材の宝庫といわれていた岩手県も、生産者の高齢化や食生活の多様化などによって、その生産や消費が先細りし、消失する恐れのあるものが多くなってきました。したがってこれまで岩手食文化研究会が行ってきた県内各地の生産者との交流や次世代への食文化の継承などの活動はますます重要性をもってきています」という菅原悦子代表の挨拶の後、田沢光正事務局長より、昨年度の活動報告と収支決算書、今年度の活動計画案と収支予算書案が提出され、いずれも承認されました。

この席上で、今後の研究会の在り方として、菅原代表と田

沢事務局長から提示された内容は、だいたい次のようなものでした。

これまで、Ｔ・Ｃ・Ｉの皆さんのご苦勞をおかけしていた事務局を、昨年度からは田沢事務局長のオフィスに移転した。

① それを機会に、昨年十一月から二月に一度の割合いで、会員や外部講師が、食と農に関する最近の話題を、それぞれ専門の立場で提示し、皆で自由に意見を交換しあう、「食・農塾」を設定している。これからも、更に多くの会員や一般の方々に参加してもらい、岩手の食や農について一緒に考える機会を増やしたい。

② 『岩手の食材30選』を上梓してより、続編を期待する声が高まっている。いつか、その願いが実現するよう、取材などが、今から準備しておきたい。

③ これまでとおり、現地研修会を企画し、一層、生産者との交流と情報収集をはかりたい。

④ 研究会で得られた情報を、できるだけ多くの人に知ってもらおうべく、新たな取り組みとして、HP内容の充実に着手したい。

その他、雑誌『月刊農業普及』に、研究会世話人の千葉マキ子さんたちが中心になって、「岩手の伝統食材」という記

事を隔月連載していること(二月号・モクスガニ、四月号・雁喰豆、六月号・ワカメ)。また、

研究会会員の高家卓哉、章子ご夫妻たちが中心になつて活動している「みち草の驛」が、農林水産省農林振興局長賞を受賞したことなどが報告されました。

なお、「みち草の驛」の活動内容は『週刊文春』六月十日号に紹介されましたので、会報裏面に載せておきます。

総会終了後は、午後二時三十分から二時間、「早池峰山麓タイムグララの暮らし」と題して、映像作家・澄川嘉彦氏の講演があり、これには四十名ほどの人が参加しました。

氏は、東大卒業後、ディレクターとして、NHK仙台局に赴任していた時、ローカル番組の取材で、向田マサヨさんとの出会い、NHKスペシャル「マサヨはあちゃんの天地」を制作しました。その後、NHKを退職し、岩手県川井村タイムグララに移り住み、マサヨはあちゃんを撮りつづけ、それを、二〇〇四年春、記録映画「タイムグララはあちゃん」にまとめました。現在は、ハヤチネプロダクション代表として様々な映像作品の制作にあたっています。

講演の内容については、日報の記者が取材にきていたものでその記事に譲りますが、講演の続編として、この十一月

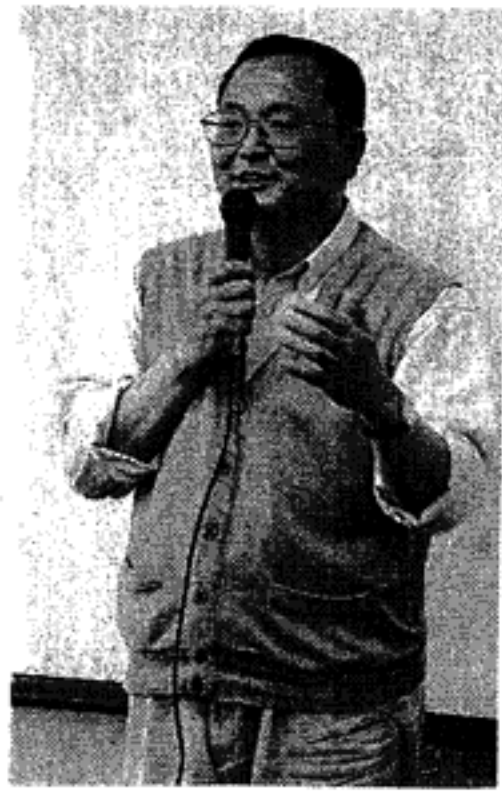
に、研究会では、映画「タイムグララはあちゃん」の上映を計画しています。ご期待ください。

その後の、東家における、澄川氏を囲んでの懇親会も、大変に盛り上りました。

岩手食文化研究会(菅原悦子代表)の特別講演会「早池峰山麓タイムグララの暮らし」は5日、盛岡市紺屋町の市勤労福祉会館で開かれ、宮古市江繋タイムグララ在住で、映画「タイムグララはあちゃん」などの監督を務めた映像作家澄川嘉彦さんが講演した。

澄川さんは、タイムグララはあちゃんこと向

タイムグララの暮らしについて講演する映像作家の澄川嘉彦さん



### タイムグララの暮らしを紹介

宮古の映像作家澄川さん 盛岡で食文化講演

田マサヨさんの暮らしを振り返り、命をつなぐ食の力について「手間をかける実感を忘れてはいけない」と訴えた。

自身も11年間タイムグララに住み続けている経験から「時間をかける大切さを学んだ。本当のことには時間がかかるという実感を忘れてはいけない」と強調した。

向田さんがみそを造る際「こうじ菌がみそにしてくれる」と話していたことを例に挙げて「人間だけで生きていくのではなく、生き物

「岩手日報」六月六日付